

お問い合わせ
カヤバ株式会社

〒105-5128
東京都港区浜松町二丁目4番1号 世界貿易センタービルディング 南館28階
TEL.03-3435-3511 FAX.03-3436-6759

統合報告書
カヤバグループレポート2023
2022年4月1日～2023年3月31日



カヤバグループレポートはFSC®森林認証紙、ノンVOCインキ(石油系溶剤0%)など環境に配慮した資材を使用し、グリーンプリンティング認定工場で印刷されています。

私たちが「カヤバグループレポート」を通じてお伝えしたいこと

本報告書は、カヤバグループの経営方針や事業戦略、CSRに対する活動を株主・投資家をはじめとしたすべてのステークホルダーの皆様にご報告する目的で2019年度より発行しています。本報告書を通じて、歩んできた歴史を土台として豊かな未来へと進み続けるカヤバの将来性についてご理解いただきたいと考えています。

カヤバの存在意義や可能性にご期待いただき、長期的に当社を応援してもらえるきっかけづくりとなるように、あらゆる立場のステークホルダーの皆様にカヤバを知っていただくための導入ツールとして整理しました。今後も、皆様からのご意見を参考に改善を図り、よりわかりやすい報告書の制作に努めていきます。

さらに詳しく知りたい方は、当社ホームページに掲載しているプレスリリースや技術、環境など企業情報や投資家情報内にある各種レポートをご覧ください。と幸いです。

ステークホルダーの皆様へ

経営理念の遂行に向けた「私たちの約束」を踏まえ、日々の業務・会社生活の中で守るべき具体的なルールをまとめたものが「カヤバグループ企業行動指針」です。社会への取り組みについての基本的な考え方はこの指針に示されており、カヤバグループで働くすべての人を対象とし、この指針に従って行動することが求められています。

私たちの約束

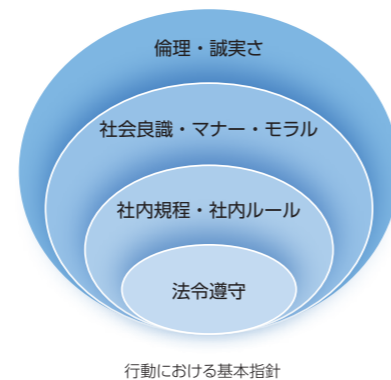
お客様へ
お客様の満足・信頼を得るために、優れた技術により安心・安全で高品質な商品・サービスを提供します。

社会と環境に
安全と環境への配慮を最優先し、地域社会との調和を図り、良き企業市民として社会に貢献します。

株主の皆様へ

透明で質の高い経営を行い、適正な成果の還元をはかり、株主の皆様の理解と満足を高めます。

私たち一人ひとりは
法令を守り、お互いの人格・価値観を尊重し、創造意欲あふれる明るく活気ある職場作りに努めます。



お取引先様へ

相互信頼を築くため透明で自由な競争と、正当な取引を約束します。

ホームページ

<https://www.kyb.co.jp>



SNS



@kybcorporation



@KAYABA_KYB



@kayabacorporation



@kyb_official

投資家情報

経営戦略、財務・業績情報などIR活動に関わる情報を掲載



製品情報

幅広い産業の快適と安全を支える製品情報を掲載



モータースポーツ

さまざまなレースへのサポートやスポンサーなどのモータースポーツ情報を掲載



対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日

(注)一部、上期期間以降の取り組みも掲載しています。

対象範囲

カヤバ株式会社および国内外関係会社

(注)環境データに関しては、特に注記のない場合はカヤバ株式会社(相模工場、熊谷工場、岐阜北工場、岐阜南工場、岐阜東工場、三重工場)のデータを示しています。

発行時期

2023年10月

将来の見通しに関する注意事項

本報告書には発行日時点における計画や見通し、経営計画・経営方針に基づいた将来予測を含んでいます。この将来予測は、制作時点で入手できた情報によって判断しており、諸条件の変化によって見通しとは異なる可能性があります。重要な変更事象が発生した場合、適時開示などにてお知らせいたします。ステークホルダーの皆様には、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。



表紙デザイン

カヤバのコア技術が電動化と融合し、未来に向かう様子をデザインしました。「技術の追求」を願った創業者のDNAを受け継ぎ、時代に合わせて進化させながら未来へつないでいく、という意図を象徴しています。

目次

01 私たちが「カヤバグループレポート」を通じてお伝えしたいこと

■ カヤバグループの概要

- 03 カヤバの原点
- 05 現代に続く暮らしの中のカヤバ
- 05 カヤバグループの1年

■ カヤバグループの経営戦略

- 07 CEOメッセージ
- 09 2023中期経営計画
- 11 未来に向けたカヤバの存在意義

■ 価値創造への取り組み

- 14 人財戦略
 - 14 人財育成
 - 16 健康経営
 - 19 安全衛生
- 20 モノづくり戦略
 - 20 技術 / 生産
 - 23 品質
 - 24 知的財産活動
- 25 マネジメント戦略
 - 25 ESG経営
 - 26 コーポレートガバナンス
 - 33 内部統制 / コンプライアンス
 - 34 リスクマネジメント
 - 35 環境保全
 - 43 サプライチェーンマネジメント

■ カヤバの事業戦略

- 46 事業における3本の柱
- 47 AC事業(オートモーティブコンポーネンツ事業)
- 51 HC事業(ハイドロリックコンポーネンツ事業)
- 55 特装車両事業

■ データ

- 57 カヤバハイライト
- 61 11年間の財務サマリー
- 63 グローバルネットワーク
- 65 社外からの評価(2022年度)
- 66 会社概要 / 株式情報

油圧技術のパイオニアとして 創業から104年

1900年代初頭のヨーロッパから始まった油圧技術にいち早く興味を抱いた菅場資郎(創業者)により、カヤバは歴史の一歩を踏み出します。1919年、21歳という若さで「菅場発明研究所」を興した菅場資郎は、ドイツやイギリスの製品をも凌駕するような高性能の油圧製品を数多く発明・提案し、100種にも及ぶ特許を取得しました。日本における油圧技術のパイオニアとしての礎を築き、現代に続く会社の発展につなげました。



油圧緩衝脚の発明

1935年に菅場製作所を創立し、自動車用ショックアブソーバの前身となる航空機用の「油圧緩衝脚(オレオ)」を発明。この発明が何トンもの力がかかる機器を正確に制御し、振動を最適に吸収する今日のカヤバの油圧技術につながっています。



引き継がれる 「意志」

菅場資郎は「新技術の開発は会社発展の基本」「こだわりを持って、諦めずに探究し続ける」というメッセージを残しています。その一生を発明研究に捧げた創業者の意志は、技術水準と業績に貢献した者を表彰する「菅場資郎賞」や技術の進化を追求する「技術発表会」などを通じて未来に引き継がれています。

活気に溢れた現場が、世界の人々に悦ばれ、社会に貢献できるモノづくりにつながると私たちは信じています。

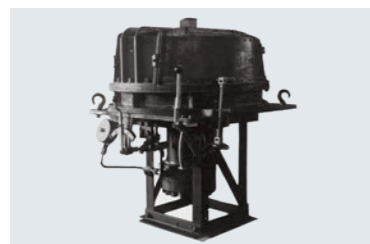


創業者の想いが込められた社章

創業者がデザインしたこのマークは、宇宙誕生の神秘から着想されて会社設立の精神と経営のあり方を表現しています。真ん中の大円は回転する天体を、3つの小円は新衛星が生まれようとしている様子を、活気・愛・独創を意味しています。原点回帰を謳った2022年より再び社章に採用されました。

Episode

最初の油圧製品(1919)



横策制動装置

戦闘機を安全に発着艦させるという人命に関わる難題に対して、すべての油圧装置をリモートコントロールするという画期的な設計をしましたが、当初は中々認めてもらえませんでした。「これこそ理想的な装置であり、このシステムが唯一かつ最良の方法」と懸命に説得を繰り返し、1926年に世界初となる制動装置が空母「鳳翔」に装着されました。

SA第1号(1946)



ジープ用SA

戦後間もない1946年後半に自動車メーカーと協力して「ショックアブソーバ(SA)」という新製品の研究開発を始め、在日米軍が使用していたジープ用のSA 4,000本を受注。その後自動車の普及とともに徐々にシェアを拡大させていきました。

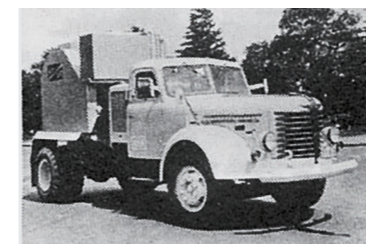
SAの応用(1951)



鉄道車両用オイルダンパー

1951年に国鉄(日本国有鉄道、現 JR)と共同研究で鉄道車両用オイルダンパーの開発を始動、その後大手自動車メーカーや二輪車メーカー、建設機械メーカーなど、多岐にわたる強固な顧客基盤を築きました。

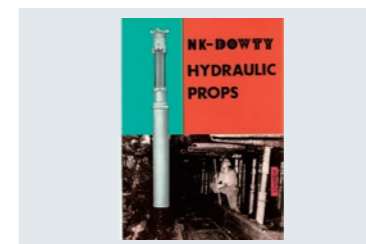
最初の特装車両製品(1953)



ハイロー型ミキサ車

1953年に富士物産社が輸入販売する米CTM社のハイロー形コンクリートミキサ車のトラック部品を組み立てて架装。これがコンクリートミキサ車国産化の基礎となり、1959年にドラム本体が回転して生コンクリートをその重力で攪拌するという画期的な「傾胴型ミキサ車」の生産を開始しました。

油圧シリンダの元(1958)



炭鉱用の液圧支柱(水圧鉄柱)

1958年に炭鉱用の液圧支柱の技術をイギリスから導入。その後パッキン構造の技術改良によって1964年には月産4,000本に達するほど一世を風靡しました。液圧支柱のシーリング技術とパイプ溶接構造技術は建設機械、産業機器に応用され、油圧シリンダや油圧ジャッキなどが開発されます。さまざまな困難を伴いながらも、パッキンを基本としたシール機能に改良を加えるなど独自のシーリング技術を生み出しています。

油圧総合メーカーへの基盤(1962)



油圧ショベル用シリンダ

1959年以降、油圧総合メーカーとしての基盤づくりを目指し、一般機械用油圧機器の本格的取り組みを始めました。ピストンロッドの油漏れがなく価格も手頃なカヤバ製は、建設機械、産業機器双方の業界から脚光を浴びます。1962年11月には小松製作所様から油圧ショベル用シリンダ月産300本を受注。その後もお客様からの受注が相次ぎ、岐阜工場でのシリンダの量産体制が整えられました。

現代に続く暮らしの中のカヤバ

3つの事業を柱に社会に付加価値を提供

創業者 菅場資郎のDNAを今に受け継ぎ、独創性を追求した、そして技術力をベースとしたさまざまな製品が現代の暮らしを陰ながら支えています。身近な移動手段を支えるオートモーティブコンポーネンツ(AC)事業、暮らしのインフラを支えるハイドロリックコンポーネンツ(HC)事業と特装車両事業の3事業を柱に、今後も暮らしに欠かせない製品の提供を通じた社会貢献を目指し続けます。

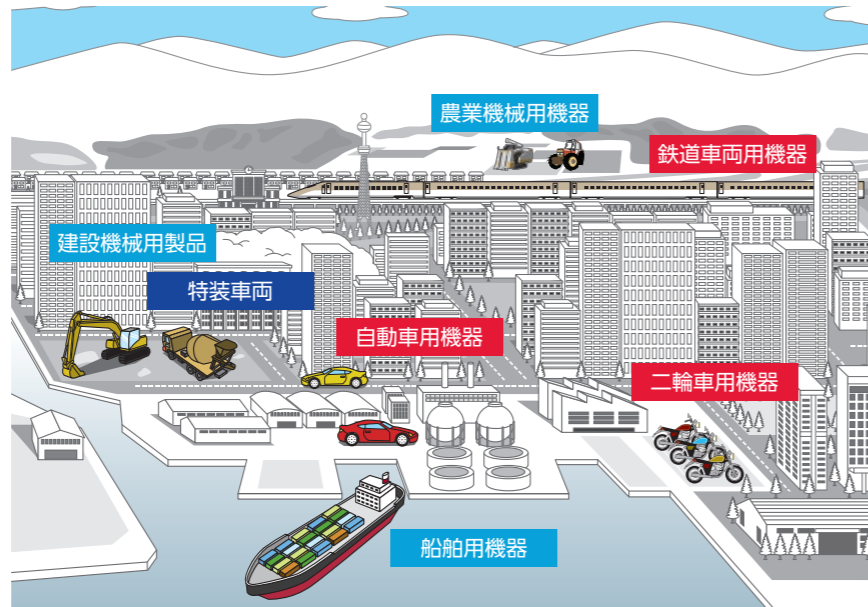
AC事業 p. 47



HC事業 p. 51



特装車両事業 p. 55



受け継がれる「DNA」

油圧の専門家として、さまざまなデジタル技術を用いて新しいアイデアやビジネスの創出、品質向上や生産性向上につなげ、未来社会に貢献する製品を生み出し続けています。



自動車用ショックアブソーバ



eミキサIIIとキャブ内モニター



ソレノイド式減衰力調整式SA



油圧ショベル用高圧シリンダ(KCHJ)



製品の高付加価値化

日本初の自動車用ショックアブソーバ、油圧ショベル業界の世界標準となった高圧シリンダ「KCH」、同業他社に先駆けて始めたCAE(コンピュータによる設計開発支援)解析技術、環境対応型のミキサ車などカヤバはこれまでも業界初の付加価値の高い製品を提供し続けてきました。

近い未来、カヤバが保持する100年を超える莫大な記録やノウハウをデジタルトランスフォーメーション(DX)技術を導入し、ビッグデータ活用によって進化させて、高付加価値製品の提供を加速させます。

カヤバグループの1年

2022年

- 4月 通称社名「カヤバ株式会社」採用
ラリープロジェクト立ち上げ
調達方針説明会(Web開催)
- 5月 菅場資郎賞
スマート道路モニタリングシステム技術説明会
決算説明会
- 6月 株主総会
- 7月 国内グループ全社小集団活動発表大会
- 9月 生産技術ブロック発表会
- 10月 コンプライアンス強化月間
技能五輪全国大会
油圧エレクトロニクス技術ブロック発表会



11月

- 品質月間
全社小集団活動発表大会(生産関連部門)
自動車技術ブロック発表会

12月

- 全社技術発表会

- 開発品試乗会



2023年

- 1月 キャンピングカーを初披露(東京オートサロン)
- 2月 TCFD賛同
KAYABA Rally Teamデビュー
全社小集団活動発表大会(事務営業管理部門)
- 3月 2022年度「健康経営優良法人2023」認定

